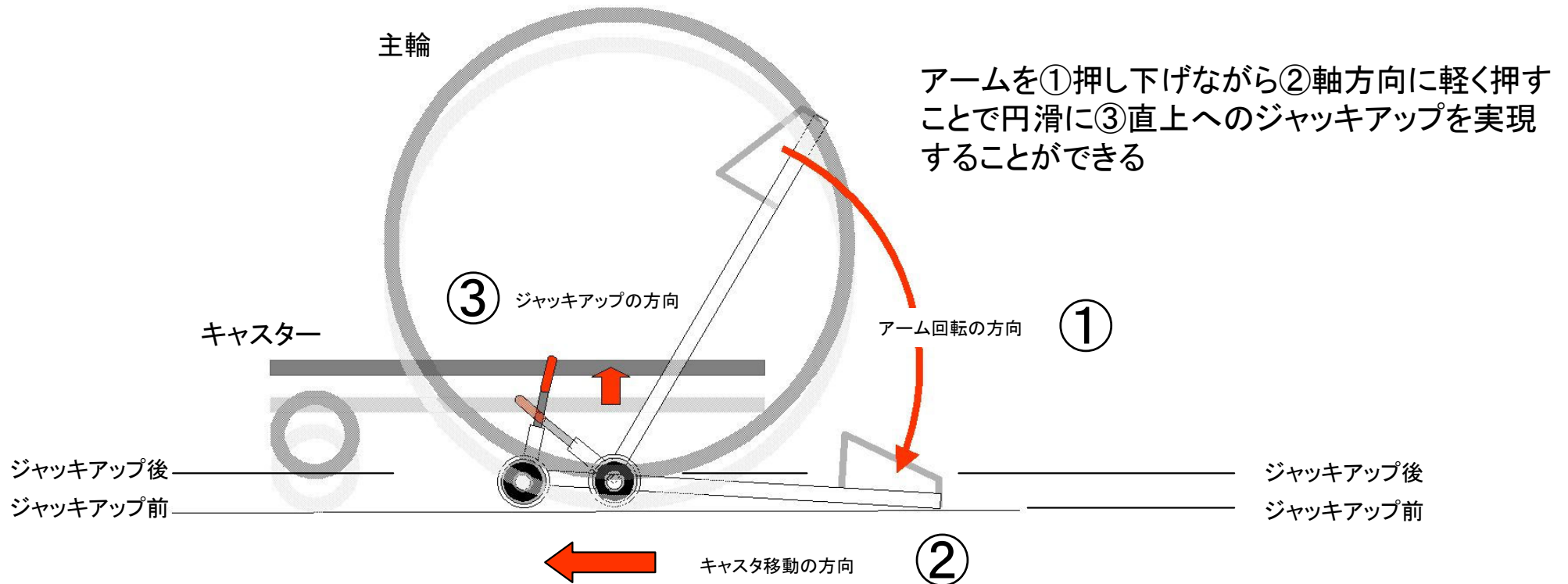
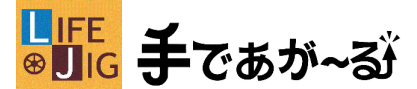


手であが～る作動の要点

Point1



取手設計の要点

車椅子自体を前後に移動することなく、ほぼ直上に挙げるにより安定した昇降が可能になる。

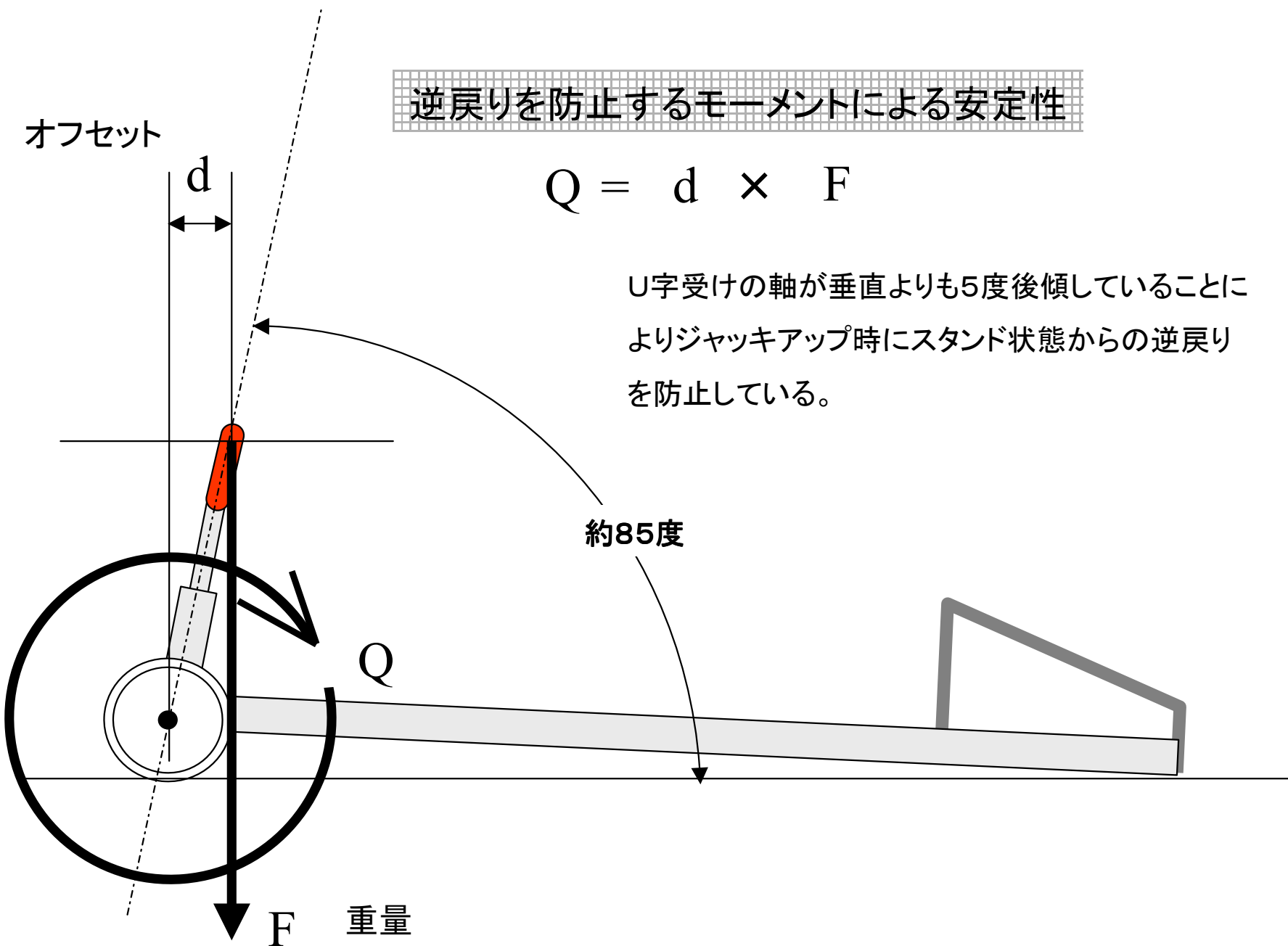
そのためにはキャストはジャッキアップ時に車椅子前方に転がる必要がある。

従ってジャッキアップ時に取手には下方への荷重と同時に軸方向の軽い押し込み圧を加えてやる必要があり、また取手にはその荷重をかけやすい形状が望まれる

逆戻りを防止するモーメントによる安定性

$$Q = d \times F$$

U字受けの軸が垂直よりも5度後傾していることによりジャッキアップ時にスタンド状態からの逆戻りを防止している。



手であが～る作動の要点

Point3

無段階の高さ調節機構を必要とする理由

■ 操作力

ジャッキアップする高さとは操作力はリニアではなく、持ち上げる量が増えるに従って2次曲線的に増大する。

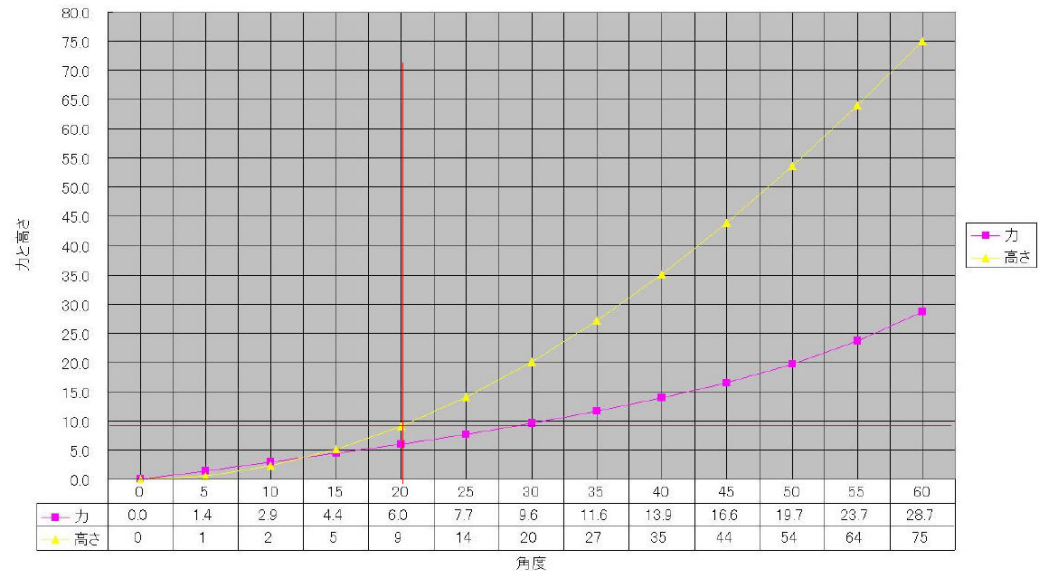
■ ジャッキアップ時の安定性

不要に高く持ち上げることにより、姿勢は不安定となり、構造的にも非対称荷重が増大する。

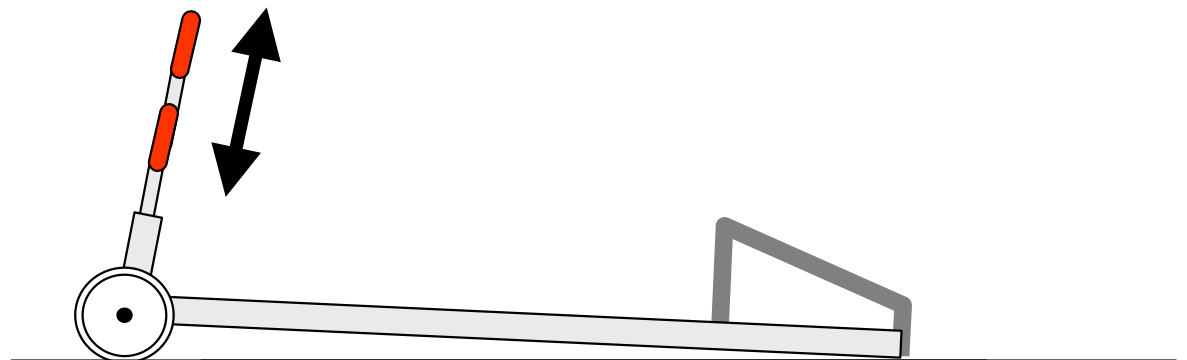
■ 蒸す売僧のパイプ下高さ

各車椅子のメーカー・タイプによってパイプ下高さは異なる

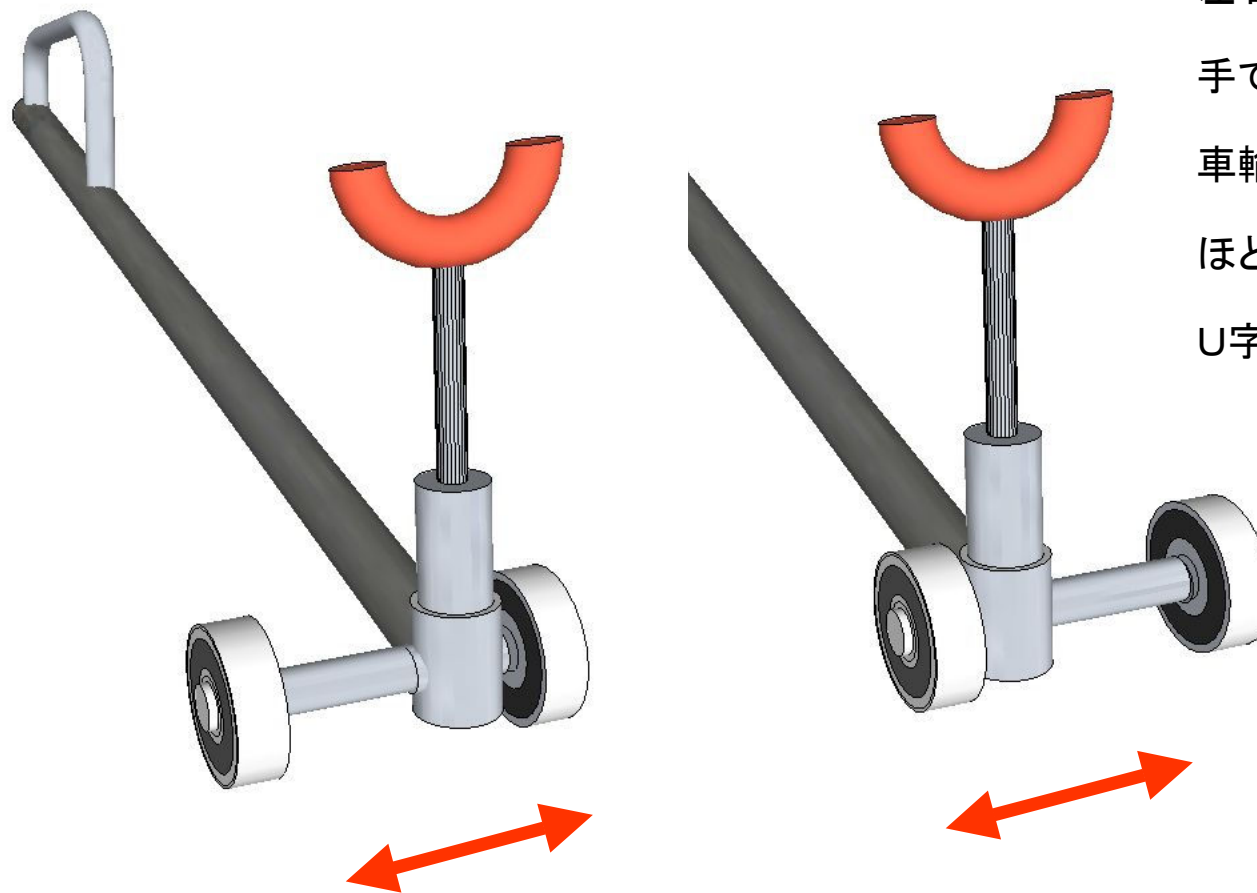
ジャッキアップする高さとは操作力の関係



高さの調節ができる



キャスターをアームのセンターから
左右にスライドさせることができる理由



左右にキャスターをスライドさせることで
手であが～るを下パイプにセットする際
車輪その他周辺構造との干渉を防ぎ
ほとんどの車椅子においてパイプ直下に
U字受けをセットすることができる

右いっぱい(左車輪のジャッキアップ時)

左いっぱい(右車輪のジャッキアップ時)